

作物名：きゅうり

病害虫名：黒星病（病原：*Cladosporium cucumerinum*）



写真1 地上部の病徴



写真2 地上部の病徴(拡大)



写真3 黒星病菌の分生子

1 被害の特徴と診断のポイント

- 生長点に近い茎の先端、若い葉、果実に発生する。特に若い茎や葉にひどく発病する。
- 葉では水浸状の小斑点を生じ、斑点が密集するとその部分がかさぶた状になるとともに生育不良となり、奇形になる。発病が激しいとそのまま生育が止まってしまうことが多い。
- 茎では暗緑色、水浸状のくぼんだ病斑を生じ、裂けてヤニを分泌する。生長点付近の葉や芽に発生すると先端が止まり、わき芽が叢生する。
- 幼果に発生すると暗緑色となり萎縮する。やや生長した果実では暗緑色、水浸状のくぼんだ病斑を生じ、亀裂が入ってヤニを分泌する。乾燥すると表面はかさぶた状になる。また、病斑部を内側にして曲がる。
- 多湿条件では病斑部に黒色ピロード状のかびを生じる。

2 伝染源・伝染方法

- 病原菌は被害残渣や農業資材に付着して生き残り、伝染源となる。
- 種子伝染も認められる。
- 病斑上に形成された分生子が風によって飛散し、周囲にまん延する。

3 発病しやすい条件

- 本病菌は糸状菌の一種で、不完全菌類に属し、分生子柄及び分生子を形成する。
- 主に露地栽培で発生し、発病適温である 17℃程度の冷涼で雨が多い条件下で多発する。
- きゅうりの他、各種ウリ科作物を侵す。

4 防除方法

(1) 発生が確認された場合

- 密植を避け通風をよくする。
- 過繁茂や軟弱な生育とならないよう適切な肥培管理に留意する。
- 発病部位は見つけ次第除去する。被害残渣は圃場外に持ち出し土中深くに埋める。
- 薬剤散布は発生初期に行う。

(2) 次作に向けて

- 農業用資材は新しいものを使用するか消毒する。支柱についた巻きひげは除去する。

5 出典

(1) 参考文献

- 日本植物病害大辞典（全農教）、防除ハンドブック：きゅうり、スイカ、メロンの病害虫（全

農協)、農業総覧原色病虫害診断防除編2-②(農文協)、農業総覧病虫害防除・資材編2(農文協) 日本植物病害大辞典(全国農村教育協会)

(2) 写真

- 宮城県病虫害防除所撮影

(令和5年9月改訂)